

団体名

1 鶴嶺西地区まちぢから協議会

団体の運営、事業の実施状況について

団体の運営（構成団体・委員、会議等の実施回数、収支予算・決算 など）、事業を実施する中で良かった点や改善すべき点について、感じたことをご記入ください。

- こども部会を中心に地区社協/推進協/ボランティア等が協力しつるにしサマースペースということもたちの居場所や体験の場所を提供する活動は是非継続して頂きたい。多くの感謝の声を聞けたとの感想があったとおりこどもたちの居場所や学習支援は積極的に取り組んでいく活動テーマであると考えます。
- 予備費/新春の集い/広報活動費等 前年で予算計上をして未実施項目が R8 年の予算額にも同金額で計上されていますが未実施になった経緯と R8 年予算の再計上の必要性について教えてください。
 - 新春の集いについては、8年1月の運営委員会後に運営委員のみでの賀詞交歓会を実施し、その費用は会議費から支出しています。また、広報活動費としては、道交法改正パンフレットを作成しており、備品費から支出しています。7年度は別科目からの支出となっていますが、今後実施内容等を踏まえ、より分かりやすい支出項目となるよう助言をまいります。
 - 予備費については、7年度支出の必要はありませんでしたが、不測の事態に備え計上するものです。
- 認定基準確認書に基づく認定基準には適合していると所見します。
- 鶴嶺西地区では、子どもの居場所づくりや防災訓練など、地域に身近な事業が継続して行われていることが確認できました。地域の課題に合わせて、できることから取り組まれている印象です。
- 協議会の組織態勢が確立して、安定的に運営されているようです。
 - 「運営補助金」として50万円が組まれており、支出先は、地区社協。推進協、防犯協会となっているようですが、地域内の実績ある活動団体の力を活用していくスタイルは好ましいと考えます。

今後の運営や事業展開に関する助言について

今後の運営や事業展開にあたり、期待することや注意すべきことがあれば、ご記入ください。

- こども部会を中心としたこども支援活動の今後の展開地域性を顧慮すると通年での活動に挑戦して頂きたく松林地区のこども支援/地域内で実施されている学習支援活動こども食堂・学習支援を実施している活動団体等との意見交換や連携を行い夏休み中だけではない活動への展開を期待致します。
→鶴嶺西地区においては、地区社会福祉協議会において毎月第2土曜日にこども食堂が開催されています。夏休みだけでなく、通年での取り組みについても今後の検討課題と提案いたします。

(「つるにしサマースペース」のに関して、今後期待される点)

- 事業の継続と安定的な居場所の提供
令和7年度の実施により、夏休み期間中に子どもだけで過ごす家庭にとって、**「安心して過ごせる場所」**としての大きなニーズがあることが実証されました。子どもたちからの「来年も来たい」という声や、保護者からの高い満足度を受け、次年度以降も継続して実施されることが期待されます。
- 運営体制の強化とスタッフの確保
今後の最大の課題として、見守りスタッフの確保と特定メンバーへの負担集中が挙げられています。これを解決するために、以下の点に期待が寄せられています。
- 学生ボランティアの活用：若い世代の力を借りることで、体制を強化する。
- 他団体との連携：地域の他の団体からの応援を得ることで、持続可能な運営体制を構築する。
- 密なコミュニケーション：メンバー全体がやりがいを感じられるよう、事前事後の打ち合わせを継続する。
- プログラムの充実と交流の促進
参加した子どもたちが「学年を超えた交流」や「地域の大人とのつながり」を深められるよう、さらなる工夫が期待されます。
- 多様な体験の場：料理やイベントなど、子どもたちが毎日楽しそうに話せるようなプログラムの検討。
- 地域住民とのつながり：地域の企業からの支援（飲料水の差し入れ等）の継続や、地域全体で子どもを育てる仕組みの深化。
- 社会的ニーズへの対応
社会情勢の変化に伴い、地域で子どもを育てる取り組みの重要性が増しています。これまで手薄だった**「夏休み期間の日中の居場所」**を鶴嶺西地区として提供し続け

ることで、地域福祉の向上と、保護者が安心して働ける環境づくりへの寄与が期待されます

- 今後は、活動を支える人が一部に偏らないよう、参加しやすい形で協力者を少しずつ増やしていくことが大切だと思います。無理なく続けられる体制づくりを意識していただければよいと思います。
- 防災部会について、「現状の自治会代表だけにとらわれず、広く防災活動に理解ある部員を募集し、幅広い活動をめざす。」というのは重要な視点だと思います。協議会という枠組みを使って、地域活動の輪を広げていけるとと思います。
- サマースペースは大変良い取り組みだと思います。保護者からも大変感謝されているようですが、担い手は足りているのでしょうか。
 - 7年度サマースペース実施後の意見交換において、担い手の確保が課題という意見も出ています。8年度は学生ボランティアや他の団体からの応援を得ながら、運営を行う予定となっております。
 - つるにしサマースペースは令和6年度から始め、2回目の実施となり、保護者の方や参加してくれた子どもたちからは「楽しかった」「安心して過ごせる場所があり、よかった」など多くの感謝の意見がありました。運営については、スタッフの確保やイベント内容の精査等、課題も見つかっています。8年度も開催することは決定していますが、少しでも課題を解決し、運営を行う予定となっております。

団体名

2 茅ヶ崎地区まちぢから協議会

団体の運営、事業の実施状況について

団体の運営（構成団体・委員、会議等の実施回数、収支予算・決算 など）、事業を実施する中で良かった点や改善すべき点について、感じたことをご記入ください。

- 運営委員会と役員会の役割分担が Agenda からはわかりにくい。
→役員会での協議においては、運営委員会で取り扱う議題について、ある程度の当協議会としての考えをまとめるために開催されているものです。運営委員会では、役員会での協議を受けて、議決を行っています。
- 防災部会は部会の開催や講師を招集しての活発な活動となっている。
地域の特色である駅周辺の商店街や他の協議会との連携等今後の展開を伺いたい。
→防災を特別なイベントとして捉えるのではなく、日頃の地域活動（コミュニティイベントや福祉活動など）の中に防災の視点を織り込む「防災“も”まちづくり」をさらに推進します。日常的な住民同士の顔の見える関係づくりをベースに、災害時にもお互いに声を掛け合い、孤立する人を生まない「自立と共助のまち」を目指してまいります。
- 広報活動について広報紙以外にどのような活動を想定しているのか絞り込めていない感じがする。
→広報活動としてはHP や自治会掲示板へポスターの掲載、その他チラシの配架などを行っております。
- 行政や市民活動団体を通じて勉強会の開催を検討してみたらどうか。
→必要に応じて、運営委員会からも市民活動団体に相談させていただきたいと思っております。
- R8 年予算¥100,000 の内容を教えてください。
→広報誌については令和7年度は1回のみ発行となりましたが、令和8年度は2～3回を目安に発行したいと考えているため予算をとっております。
→消耗品については、予算書に記載のとおりインク代、事務機器を考えておりません。
- スポーツフェスティバルと防災フェスティバルを同日にした理由は何ですか。
→令和7年度は会場となる梅田小学校が体育館の工事中であったため、梅田中学校での開催という制約がございました。そこで、限られた会場と時間を有効に活用する工夫として、スポーツフェスティバルと防災フェスティバルを同日に半日ずつ開催する形をとりました。景品に防災食を取り入れるなど、楽しみながら防災に関心を持っていただくための相乗効果を狙ったものであり、結果として大変有意義な複合イベントとなりました。

- テーマ型の活動を推進する事は評価する。但し、従来の地縁型の団体に終始しているように感じるのが残念。スポーツ/防災はテーマ型の市民活動団体と協働して進めることで多主体連携が生み出されると考える。是非検討して頂きたい。
→メンバーの固定化やマンネリ化を防ぐためにも多様な主体との連携は必要と感じていると聞いております。昨年度から特定事業の開催チラシを地区外の小中学校にも配布しており、参加者数の増加や、学生ボランティアが増えたりと良い傾向に向かっています。引き続きチラシの配架範囲を広げると共に、興味のある方への呼びかけも含め、新たな他主体連携を図っていききたいと考えていると報告を受けております。
- スポーツフェスティバルの R7 600k¥から 470k¥と減額の理由は何ですか
→本事業は令和5年から補助金を出して実施しており、この2年間で大会運営に不可欠な大型備品や繰り返し使用できる機材などの「初期投資」を計画的に進めております。今年度につきましては、純粋な運営費、消耗品費に絞り予算編成を行っています。
- 会議費 47.76k¥→R8 予算 120k¥のUP 要因はなんですか
→運営委員の方々も大きく変わられたため、去年実施されなかった新年会を実施する予定となっています。
- 広報紙発行 48.775k¥→R8 予算 100k¥ 広報内容は何ですか
→まちぢから協議会や運営委員会である、婦人会や社会福祉協議会等のイベントを掲載した内容になっております。
- 認定基準確認書に基づく認定基準には適合していると所見します。

(特定事業：茅ヶ崎地区スポーツフェスティバル)

- よかった点
 - ①組織間の強固なネットワーク構築：協議会が主催となり、青少年育成推進協議会や子ども会連合会などの各団体が企画段階から主体的に参画したことで、団体間の強固なネットワークが構築されました。
 - ②新たな担い手の発掘と交流：事業の企画・運営を通じてスタッフ同士のコミュニケーションが育まれ、新たな担い手につながる関係性が構築されました。また、当日の運営では一般参加者も片付けに協力するなど、参加者とスタッフ間の交流も見られました。
 - ③円滑な運営体制：事前の情報共有や役割分担を徹底したことで、当日の進行がスムーズになり、スタッフ間での一体感や成功体験の共有できました。
 - ④広域的な周知：他学区（円蔵学区、松林学区）への周知を行ったことで、他学区からの参加者も見られました。
- 改善すべき点
 - ⑤他学区からの参加者数：周知活動を行ったものの、他学区からの参加者は見込みよりも少なかったため、次年度以降の周知・啓発方法に課題が残りました。
 - ⑥引き継ぎの難しさ：当地区はマンション自治会が多く、自治会長が1年で交代するケースが少ないため、培った経験を次年度以降へどう引き継ぐかが課題です。

- 茅ヶ崎地区では、役員会や運営委員会、防災部会などが継続して開催され、地域の課題について話し合いながら活動されていることが分かりました。防災訓練や市民集会、交流事業、広報紙の発行など、地域に必要な取組が幅広く行われている印象です。
- 役員会、運営委員会が定期的で開催されており、協議会の組織態勢が確立されていると思います。

今後の運営や事業展開に関する助言について

今後の運営や事業展開にあたり、期待することや注意すべきことがあれば、ご記入ください。

- 地域特性である、エメロードを主体とした商店街、新栄町、十間坂の旧市街地、新規タワーマンション等多様な住人を協議会委員に加えた組織運営を行って欲しい。
→現在、地区内の商店街をはじめとする多様な主体を巻き込んだ、新たな協働事業の可能性を模索しております。地域の課題解決や活性化に繋がる持続可能な仕組みづくりを目指し、運営を続けていくつもりです。
 - エメロード周辺の空き店舗や銀行の1Fスペースの有効活用を考慮したまちの活性化に取り組んで欲しい。
→運営委員会での議題としていただけるよう、提案してまいります。
- (特定事業：茅ヶ崎地区スポーツフェスティバル)
- 今後に期待する点
 - ①持続可能な運営体制の構築：助成金で購入した物品の活用や、協賛金・参加団体からの負担金などの自主財源の確保について検討を続け、事業を継続的に実施していくことが望まれます。
 - ②地域活動への興味喚起：本事業をきっかけに、より多くの住民が地域活動に興味を持ち、新たな担い手の創出につながることを期待されます。
 - 今後も、防災や福祉、交通安全など、住民の生活に近いテーマを大切にしながら、地域の声を事業に生かしていくことが期待されます。活動内容を分かりやすく発信し、参加しやすい雰囲気を広げていけるとよいと思います。
 - 梅田地区体育振興会の体育祭を協議会主催に切り替えることにより再活性化させるスポーツフェスティバルは、よい着眼の事業だと思います。これを突破口にして地区全体の動きを作り、参加してくれる地区住民を増やしていくといいと思います。

団体名

3 湘南地区まちぢから協議会

団体の運営、事業の実施状況について

団体の運営（構成団体・委員、会議等の実施回数、収支予算・決算 など）、事業を実施する中で良かった点や改善すべき点について、感じたことをご記入ください。

- ・湘南地区は浜見平団地の再開発、介護付き高齢者住宅の進出、柳島スポーツ公園/道の駅など、多様な地域特性を持っている中で、多岐に渡る活動を展開されていると感じます。各部会の活動内容にはテーマ型の市民活動団体が参加できそうな活動が多く行政は従来の参加団体以外の分野が異なる団体の支援・協力を作り対応を是非検討して頂きたいと考える。

→各活動における実施状況や課題、参加者ニーズ等を改めて整理した上で、必要に応じて市民活動サポートセンターとも連携を図りながら、市民活動団体等による協力のあり方について、まちぢから協議会と検討してまいります。

（広報活動事業）

・よかった点

- ①デジタルとアナログの融合: 広報紙にQRコードを掲載し、詳細情報や動画（ドローン空撮、イベント動画等）が掲載されているホームページへ住民を誘導する仕組みが整っています。
- ②生活密着情報の充実: ごみカレンダー、防災・緊急情報、茅ヶ崎FMなど、住民が日常的に必要とする情報をホームページに集約し、利便性を高めています。
- ③担い手の育成と情報共有: 広報部会での技術的なQ&Aや演習形式の講座を通じて、情報通信員のスキル向上を図りました。また、LINEグループの活用により、迅速な情報共有体制が構築されています。

・改善すべき点

- ①編集体制の負担軽減: 本来2名体制の予定が、ソフトの契約等の都合により実質1名に負担が集中してしまった経緯があります。持続可能な運営のために、安定した複数名による編集体制の確保が急務です。
- ②予算配分の最適化: 費用対効果の観点から、事業内容に合わせたより適切な予算配分の検討が求められます。

（中中トレイン）

・よかった点

- ①若年層へのアプローチ: 12月号の広報紙を中島中学校の全校生徒へ配布したことは、地域活動を次世代やその保護者層へ周知する上で非常に有効な取り組みでした。

②地域一体となった活動: 本地区のシンボルマークを学校などに募集し、地域住民一人ひとりが参画できるような活動を展開した点は、地域コミュニティの醸成に寄与しました。

- 湘南地区では、各部会が継続して活動しており、防災、交通安全、子ども、福祉、スポーツ、広報など幅広い取組が行われていることが分かりました。特に「中中トレイン」は、子どもの学習支援や居場所づくりにつながる良い活動だと思います。
- 組織態勢と活動内容、ともに充実しています。
地域の様々な活発な活動と連携して広範囲の活動を手掛けることができています。特に、特定事業の中中トレインは、中学校とも密に連携しているすぐれた事業で、昨年度はさらに拡充されています。

今後の運営や事業展開に関する助言について

今後の運営や事業展開にあたり、期待することや注意すべきことがあれば、ご記入ください。

- まちちから協議会だけでは対応出来ない課題を持っている地域であり、この課題は茅ヶ崎の各地域が今後直面する課題となると思う。行政とまちちから協議会が協働し 各課題に対し従来の協力団体以外の様々な支援体制を作りだし各地域が参考となるようなモデルケースを作っていく事を期待する。
→地域により抱えている課題や特性は異なるものの、今後共通して直面する課題は少なくないものと考えております。例えば、高齢者の外出・移動支援については、地域によっては課題として挙げられているところもあり、当地区では、行政、まちちから協議会、NPO、事業者等の多様な主体が協働した事業である「おでかけワゴン」を実施し、課題解決に向けた取組を進めております。
今後も、様々な地域課題に対し、行政とまちちから協議会が協力しながら、必要に応じて多様な主体との連携の可能性について検討していく必要があると考えております。
引き続き、地域課題や住民ニーズ等を整理しながら、地域の実情に応じた取組につながるよう、まちちから協議会と検討を進めてまいります。
- 「生活インフラ」としてのHP: 「見てもらう」から「生活で使ってもらう」ホームページへの進化を掲げており、自治会回覧のデジタル併用など、さらなる利便性向上が期待されます。
- 担い手の継続的な発掘: 地域の広報活動を担う人材をさらに増やし、活動の幅を広げていくことが期待されます。
- 中中トレインについては双方向の連携強化: 広報紙の配布にとどまらず、中学生がホームページ制作や情報発信に協力するなど、「中中」の若い力を活用した新しい形の広報活動への発展が期待されます。

- 今後も、学校や地域団体、ボランティアとのつながりを大切にしながら、無理なく続けられる形で活動を広げていくことが期待されます。広報紙やホームページなどで活動を伝え、参加しやすい雰囲気づくりを進めていただければと思います。

団体名

4 海岸地区まちぢから協議会

団体の運営、事業の実施状況について

団体の運営（構成団体・委員、会議等の実施回数、収支予算・決算 など）、事業を実施する中で良かった点や改善すべき点について、感じたことをご記入ください。

- 役員会の Agenda が運営委員会の議案検討となっているが役員会の内容を精査して欲しい。（議案検討のための会議は必要ですか）
→役員会での協議においては、運営委員会で取り扱う議題について、ある程度の当協議会としての考えをまとめるために開催されているものです。円滑な議事進行のため、必要なものと捉えています。
- 海岸地区盆踊り助成金が 1,050k¥(前年 660K¥)にアップした理由。
→令和7年度において、来場者数の増加に伴い駐輪スペースの照明を増設してことで、運営費用が例年よりも多くかかっております。これにより、令和8年度においては、その分の経費を特定事業助成金に計上したことによるものです。
- 広報部会；広報紙の発行以外の広報活動への取り組みを検討願いたい
→広報紙以外では、地区独自に設置しています広報掲示板を活用して、各事業のポスターの掲示やチラシの配布を行っています。また、現在ホームページの改訂についても取り組んでおり、徐々に各事業の開催状況等を掲載している状況です。
- 防災安全部会；海岸エリアの他の協議会との連携、企業や防災ボランティア団体との協力を是非検討願いたい
→他の協議会との連携については、茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会において、広報紙を配布するなどして活動内容の共有を図っております。他の協議会との連携については、後述のとおりです。
企業との連携についても、防災訓練時に明治安田を講師とした「在宅避難のススメ」と題した防災セミナーを開催しております。”
- イベント企画部会；梅まつり、盆踊り、市民集会、サマースペース海岸 等 イベント交流が盛んのように思う。多世代交流/移住者交流/地縁団体以外のテーマ型活動団体交流等どのような交流が図られているか教えて欲しい
→多世代の交流については、サマースペース海岸でのボランティアスタッフである地域住民や学生と小学生の交流が行われていることや、盆踊りや防災訓練などの各種イベント開催時に会場設営などの機会に幅広い世代の地域住民が参加し、交流している様子が見受けられます。
移住者の交流については、現在移住者に特化した事業は行っておりませんが、各事業については、地域住民であればどなたでも参加できる形としておりますので、参加者として参加いただいているものと考えております。特化した事業については、今後検討を促してまいります。

地縁団体以外のテーマ型活動団体交流については、ペット避難に関する防災活動等において、活動に応じて、各種団体と連携を図っております。

- 盆踊りの支出(予算 1,520K¥)が特出しすぎているように感じる。海岸地区の盆踊りは何か特別なのですか？

→盆踊りについては、当地区の特徴的な事業となっており、毎年 2000 名を超える来場者数となっています。各自治会等における模擬店の出店のみならず、地域商店の出店もあり、地域全体の活性化に取り組んでいる事業となっています。

そのため、事業規模も年々拡大しており、それに応じた照明などに要する運営費が増大しており、他事業よりも多く予算も計上しているところです。しかし、各種事業の開催に向けて、地域商店等からの「イベント協賛金」を集め、自己資金の獲得にも努めております。そのため、全体的な金額も大きくなっております。”

- 認定基準確認書に基づく認定基準には適合していると所見する。

(サマースペース海岸について)

- よかった点

- ①参加児童の大幅な増加と居場所の提供: 1 年目の 33 名から 2 年目は 100 名、本年度(令和 7 年度)は 150 名へと参加者が着実に増加しており、働く子育て世代への支援という目的を十分に果たしています。
- ②「担い手確保」の好循環の形成: かつてこの事業に参加していた児童が中学生になり、ボランティアとして戻ってくる事例が見られる。これは、地域活動の持続可能性を高める非常にポジティブな成果と考えます。
- ③多世代交流とボランティアの活躍: 地区の構成団体だけでなく、**市内の高校生ボランティア(80 名)**を募ることで、幅広い世代間での交流が実現しました。
- ④多様なプログラムの実施: サッカー教室やお菓子作りなどのイベントを企画し、子供たちが楽しく過ごせるよう工夫を凝らした運営が行われました。
- ⑤まちから協議会の周知: 本事業を通じて、多くの住民に協議会の活動を周知し、興味を持ってもらうきっかけを作ることができました。

- 改善すべき点

- ①施設キャパシティと受け入れ制限: 参加児童が急増したことで、**「施設の広さ」**が不足しており、今後の受け入れ人数の調整が大きな課題となっています。
- ②運営スタッフへの負担: 参加者の増加に伴い、**「スタッフの負担」**も増大しており、安全で質の高い運営を維持するための体制見直しが必要です。
- ③物価高騰への対応: 予算内での実施はできているものの、物価高騰の影響を受けていることが報告されており、今後の予算管理においても注意が必要。

- 海岸地区では、役員会や運営委員会、各部会を通じて、地域の行事や防災に関する取組が丁寧に進められていることが分かりました。サマースペース海岸や盆踊りなど、子どもから大人まで地域のつながりを感じられる活動が行われていると思います。

- しっかり活動されているという印象です。事業の趣旨を明確にして特定事業を申請したり、事業収入を上げたりして、協議会の財政規模も大きくなっています。

防災マニュアルを改定されたのも重要な成果でした。そのほか、ペット同行避難を取り入れるなど、防災訓練には力を入れています。
サマースクールは、海岸地区でも協議会主催となりました。高校生のボランティアを募ったのは重要な工夫でした。

今後の運営や事業展開に関する助言について

今後の運営や事業展開にあたり、期待することや注意すべきことがあれば、ご記入ください。

- 海岸エリアでの防災対策として、松浪、浜須賀、茅ヶ崎南、南湖、湘南と合同防災、多言語での防災活動、常に防災への取り組みを中心になって促進して欲しい常に防災への取り組みを中心になって促進して欲しい。
→近隣地域との合同防災訓練については、津波避難訓練といった共通の課題に焦点を合わせた訓練については、市関係課による開催となっております。その他の訓練においては、各自主防災会等を中心に開催されているため、避難方法や避難場所等も異なるため、まず合同開催の目的等を整理する必要があるかと思えます。
多言語での防災活動については、様々な広報媒体を活用しながら情報発信を行うなど、実施方法を検討してまいります。”

- 避難マニュアルの横展開を検討願いたい
→本マニュアルについては、茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会において、資料配布し、他の協議会へ周知をすでに行っております。令和8年度においては、延焼火災に関する取り組みを行う予定のため、周辺の協議会へ継続して情報共有を図りたいと考えています。

(サマースペース海岸について)

- 地域活動への関心の広がり: 本事業を入り口として、子育て世代や若いボランティアが他の地域活動にも関心を持ち、参加していくことが期待されます。
- 運営方法のブラッシュアップ: 反省会で出された意見や課題を、来年度の開催方法（人数の調整や施設の活用法など）に反映させることで、より安定した事業運営となることが期待されます。
- 「担い手の発掘」の継続: 高校生ボランティアや元参加者のボランティア参加といった好循環をさらに強化し、地域の新たなリーダー層の育成につながることを望まれます
- 今後も、海岸地区ならではの防災の課題を大切にしながら、防災マニュアルや訓練の内容を住民に分かりやすく伝えていくことが期待されます。参加者が増えている事業については、運営する方々の負担にも気を配りながら、無理なく続けていける形にしていけるとよいと思います。

団体名

5 小出地区まちぢから協議会

団体の運営、事業の実施状況について

団体の運営（構成団体・委員、会議等の実施回数、収支予算・決算 など）、事業を実施する中で良かった点や改善すべき点について、感じたことをご記入ください。

- 7部会を組織し地域テーマに則した活動を展開されていることは評価するが、運営委員（定員 45 名）の構成を考慮すると部会数が多すぎるように思う。北部丘陵地帯の自然の特性を活かした事業活動に絞り込んだ展開を検討してはどうか
→全 8 部会で活動しています。部会は運営委員以外も活動に参加できる仕組みとなっていますが、地域内でも顔ぶれが同じだったり整理の必要性は感じており、検討を始めています。

- 協議会収支決算（運営費助成金 250K¥）、特定事業（助成金 290K¥）、認定コミュニティ助成金（440K¥）(383k¥) (492k¥) は個別の事業や部会活動の収支報告書で、補足資料です。小出まちぢから協議会の全体を把握する意味で他の協議会同様の収支報告書作成をお願いします。

* 収支報告書は見やすさと比較のし易さを考慮し統一フォーマットとして欲しい。

* 小出と松林がこのフォーマットになっているが統一すべきと考える

→資料については、各地区が自主的に作成したもので、主に、総会資料、特定事業の事業実施報告書、その他資料（チラシ、成果物等）で構成されています。収支決算書・予算書については、昨年度の審議会においても、同様のご意見をいただいたことから、フォーマットの統一化を検討しましたが、各地区が作成しているという特性を踏まえ、各地区の自主性を尊重する形としております。審議のしやすさ、事務局の負担軽減の両面から引き続き検討してまいります。

- 認定基準確認書に基づく認定基準には適合していると所見する。

• よかった点

- ①デジタル化による成果: 「相州小出七福神巡り」で導入されたスマホスタンプラリーは、前年の紙媒体（85 ポイント）に対し 211 ポイント（2.5 倍）を獲得するなど、想定以上の成果を上げました。
- ②参加者の拡大: 七福神巡りの参加者が昨年度の 137 名から 236 名に増加し、市外（川崎、横浜、都内など）からの参加者も大幅に増えました。
- ③柔軟な運営対応: 「下寺尾遺跡文化祭」が雨天中止となった際も、代替として参加した環境フェアで用意した体験教材（勾玉作り 80 セット等）をすべて使い切り、約 500 名の来場者を得るなど効果的に活動しました。
- ④ボランティアの熱意: 不法投棄撲滅活動では、当初 5 回を予定していた現場実践活動を、メンバーの熱意により 11 回に拡大して実施しました。
- ⑤多様な情報発信: 「まちぢから通信」の全戸配布に加え、Canva を活用した HP や SNS でのタイムリーな情報発信、ドローンによる遺跡紹介動画の作成など、広報活動が多角化しています。

・改善すべき点

- ①イベント日程の重複: 七福神巡りの実施日が消防出初式や地区内の凧揚げ大会と重なったため、親子連れの参加が少なかったことが課題として挙げられます。
- ②維持管理の限界: 78年の歴史を持つ「駅ピアノ」は、ピアノ本体の維持管理や調律が非常に難しく、多額の費用がかかるため、駅での開催は令和7年度をもって終了することとなりました。
- ③情報伝達の死角: 自治会未加入世帯(約150世帯)への情報把握や配布が不十分であり、全世帯へ情報を届ける仕組みがまだ確立できていません。
- ④若年層への浸透: 遺跡の活用において、未就学児の保護者など若い世代へ地元歴史を周知する機会がさらに必要とされています。

・小出地区では、買い物移動支援、子どもの見守り、防災、環境、下寺尾遺跡や七福神巡りなど、地域の特徴を生かした活動が行われており、地域の課題と魅力の両方に目を向けて取り組まれています。

・協議会の設立当初より、多彩な事業に取り組まれてこられましたが、ますます充実してきていると感じます。

社会福祉部会では、事業者と連携して買い物移動支援に取り組まれているのは重要な事業です。

子ども育成部会では、小学校の校外役員会に参加して、保護者との意思疎通を図っておられ、また朝会にも参加して児童と交流されているのは、大変すばらしい活動です。

広報活動においても、発行回数を増やしたり、自治会未加入者にも届ける工夫をされているのは重要な取り組みです。

今後の運営や事業展開に関する助言について

今後の運営や事業展開にあたり、期待することや注意すべきことがあれば、ご記入ください。

・小出地区の特色である里山公園/市民の森/茅ヶ崎市博物館、スポーツ広場(芹沢・堤・小出暫定)といった茅ヶ崎の丘陵地域を観光協会と協働し、茅ヶ崎の丘陵部のアピールにつながる活動を検討願います。

→地域に情報提供し、検討の投げかけをさせていただきます。

・文教大学キャンパスでシニアのセカンドワーク授業が開始されています。ボランティア体験、地域貢献活動といった受講しているシニアのリアル体験の場の提供はできませんか

→地域に情報提供させていただきます。部会活動については誰でもいつでも参加できますので、引き続き積極的な広報活動に取り組んでいただければ幸いです。また、授業などの機会に小出地区まちづから協議会の存在をお伝えいただけるようご協力をお願いします。

・今後に期待する点

- ①新たな形での継承: 駅での役割を終えるピアノを小出小学校へ寄付し、入学式や卒業式などの重要な行事で活用されることで、地域のシンボルとして愛され続けることが期待します。
 - ②観光・飲食要素の充実: 七福神巡りを単なるウォーキングに留めず、富士見百景や「里の家」、博物館などと結びつけ、観光要素や飲食も楽しめる事業への発展が計画されています。
 - ③テクノロジーの活用: 遺跡事業において、VRを活用した当時の建物や生活の再現など、視覚的に歴史を体験できる新たな試みの実現が期待されています。
 - ④組織横断的な連携: 特定の部会だけでなく、おやじの会やボランティアセンター、近隣自治会などが**「縦割りではない横断的な連携」**を強化し、新たな担い手を発掘していくことを目指して欲しい。
 - ⑤広域的な環境維持: 不法投棄撲滅に向け、行政や議員、近隣自治会との連携をさらに深め、活動内容を継続的に見直していく必要があります。
- ・今後も、高齢者支援や防災、交通、環境など身近な課題に取り組みながら、小出地区ならではの歴史や自然を生かした活動を続けていくことが期待されます。広報やホームページなどを通じて、活動を知る人や参加する人が少しずつ広がるとよいと思います。

団体名

6 小和田地区まちぢから協議会

団体の運営、事業の実施状況について

団体の運営（構成団体・委員、会議等の実施回数、収支予算・決算 など）、事業を実施する中で良かった点や改善すべき点について、感じたことをご記入ください。

- 福祉部会等4つの部会が活動休止中ですが、R8年予算計上は無く中止ですか？
→ 休止中の部会について今年度予算計上はございません。「活動休止中」となっている各部会では、既に成果物の完成に至っていたり、役割を終え次の展開に移行しているものとなります。
- 国道1号線、茅ヶ崎バイパスを横断する通学路を有しており小和田小、赤羽根中の学童/生徒への見守り活動の展開を期待したい。
→ 交通安全部会において児童の登下校時の交通安全を目的に熱心な活動を展開されています。児童を対象とした交通安全教室をはじめ、運転者に制限速度30キロを徹底し通学児童や歩行者、自転車利用者の安全な通行を確保する行政と連携した「ゾーン30キャンペーン」として啓発活動。多くの保護者、児童の参加のもと学校とも連携した「草あつめ」による通学路の歩道の安全確保と環境保全などに取り組まれています。
- 小和田地区まちぢからニュース「KOWADA」は、地域情報として興味深く思います。小和田地区は都市型農業や居場所作りの活動場所として活発な地域のように感じています。是非テーマ型の活動の紹介も含めて頂きたい
→ ニュースを発行している広報部会では紙面のほかにホームページや即時性の高いブログの開設など様々な媒体を活用し活動されています。頂戴したご意見は参考として部会に伝えさせていただきます。
- 認定基準確認書に基づく認定基準には適合していると所見します。

（広報誌発行事業（まちぢからニュース特集号）」について）

• よかった点

- ① 10年間の歩みの記録と共有: まちぢから協議会設立10周年の節目に、設立に携わった方々の苦労や思い出、若い世代からの期待を「記録」として残せたことは、協議会への理解を深める大きな成果となっています。
- ② コスト管理の工夫: 当初の予算立案時と媒体が変更（新聞形式から雑誌形式へ）になったが、ネットの安価な業者へ委託することで、予算内で高品質な印刷物を作成できました。
- ③ 広範な意見収集と協働: 地域の6自治会から集まった広報部会会員を通じて寄稿文を依頼し、多様な意見を反映させることができた。また、編集過程でメンバー間の繋がりが強まり、各自の能力を再発見する機会となりました。

④媒体の質の向上: 当初は A4 白黒印刷の回覧板形式であったが、今回の特集号では全戸配布の全面カラー印刷へと、視覚的・内容的に充実したものと進化しています。

• 改善すべき点

①物理的な配布条件への配慮: 当初は A4 サイズ 40 ページで計画されていたが、1冊の重さが 110g となり、6,000 部では総重量が 660kg に達することが判明した。配布手段や規模を考慮した結果、最終的に B5 サイズ 26 ページへと縮小せざるを得なかった。

②過去資料の保存状態: 特集号の編集に際して過去の広報紙が役立ったが、詳細な内容が記録としてほぼ残っていなかったことが課題として挙げられています。

• 小和田地区では、交通安全、防災、子どもの居場所づくり、広報など、暮らしに近いテーマで活動が行われていることが分かりました。特に「フリースペース小和田」や通学路の草あつめなど、子どもや保護者が関わりやすい活動が良いと思います。

• 自転車の乗り方の啓発事業を交差点で実地にやっているのは、時宜を得た取り組みだと思います。
草あつめは小学校の通学路をきれいにする取り組みで、よい事業ですが、さらに保護者や児童が参加しているのは素晴らしいと思います。

今後の運営や事業展開に関する助言について

今後の運営や事業展開にあたり、期待することや注意すべきことがあれば、ご記入ください。

• 小和田地区と松林地区の連携について教えてください。元々菱沼といったエリアでもあり一層の協力体制を構築すべきと考える。

→ご指摘のとおり隣接する松林地区とは学区が重なるなど関係性も高いため、これまでも松林地区と一体となった市北東部の魅力発信といった事業なども展開しています。また、松林地区まちぢから協議会役員の方をオブザーバーとして協議会に参加いただいていますので今後もより一層の連携に向け市側からも働き掛けてまいります。

• 「記録」を重視した広報活動: 単なる情報伝達としての「広報」に留まらず、後世に活動を伝えるための「記録」としての視点を今後の活動に取り入れることが期待されます。

• コミュニティのさらなる醸成: 今回の雑誌発行を通じて深まった協議会への理解や、発見されたメンバーの能力・役割分担を、今後の地域コミュニティ活性化や新たな担い手の発掘に活かしていくことが望まれます。

• 今後も、子ども、防災、交通安全など、地域の中で必要とされている活動を無理なく続けていくことが期待されます。広報紙やブログも活用しながら、活動を知る人や協力してくれる人が少しずつ増えていくとよいと思います。

- フリースペース小和田は、他の地区でのサマースペースに似た、独自の事業で、よい取り組みです。文書では日替わりイベント企画が強調されていますが、子どもがゆっくりマイペースで過ごせる落ち着いた空間づくりという側面も考えてみてはどうでしょうか

→「フリースペースこわだ」開設にあたり地域では様々なご経験や技術をお持ちの方が子ども達に楽しく過ごしていただけるようボランティアとして「子ども達が何をしてもよい、何もしなくてもよい」を基本として受け入れていただきました。今年度におきましても特定事業として継続実施が計画されていることから委員からのご意見も参考に子ども達がより良い空間で過ごせますよう前回の様子なども踏まえご検討いただきます。

団体名

7 松浪地区まちぢから協議会

団体の運営、事業の実施状況について

団体の運営（構成団体・委員、会議等の実施回数、収支予算・決算 など）、事業を実施する中で良かった点や改善すべき点について、感じたことをご記入ください。

- R7年の予算額に対し決算額が5,540.4K¥と142%増額となっており、宝くじ補助金1,800K¥をベースとした市補助充当額2,409k¥で補っているが予算の立て方を説明して欲しい。

→コミュニティ助成事業補助金（宝くじ）は令和7年度のみ当選して活用できた補助金となります。当初予算で計上しておらず、当該補助金を全額活用し決算で計上した形となっています。予算をつくった段階では、当選可否が不明だったため、決算のみでの対応となっています。

- 地区防災訓練助成金 R7 予算 140k¥→決算 30.2k¥ R8 予算 107ky となっているが説明願いたい

→地区防災訓練補助金は世帯数に応じて最大の補助額が決まっているため、令和8年度予算では、松浪地区まちぢから協議会が最大で受け取れる補助額を計上した。決算では、補助対象の費用額の3/4相当が補助額となり、計上されます。

- 渉外費が他地区との連絡、交流費となっているがどのような内容か教えて欲しい。
→市まちぢから協議会連絡会の負担金や参加費、他地区でのコミセンまつり等に係る交通費・祝い金などになります。日頃の繋がりにより、松浪コミュニティセンターでの桜コンサートでは、他地区の見ごろの桜を会場が彩るなど、交流に繋がっています。

- 認定基準確認書に基づく認定基準には適合していると所見します。

（松浪地区の広報紙「まつなみだより」の発行事業について）

- よかった点

①計画通りの確実な情報発信と配布状況: 年3回の発行（6月、12月、3月）が計画通りに実施され、地区住民への各戸配布のほか、小中学校や公共施設への配架も行われており、広く情報が行き渡る体制が整っています。

②紙面の工夫と内容の充実: 住民が関心を持ちやすいよう、地区出身者の活躍を紹介する「煌（きら）めきにエールを」や、地域の歴史を紹介する「松浪さんぽ道」など、独自性のある記事が掲載されています。また、PTA等の協力により、学校関係の記事や写真撮影など、地域が一体となった編集が行われています。

③アクセシビリティの向上: 全面カラー刷りで見やすく、レイアウトにも創意工夫が凝らされています。さらに、「あなたのポケットに松浪ホームページ」をキャッチフ

レーズに、スマホで簡単に閲覧できるHPとの連動も図られており、幅広い年齢層への普及を意識しています。

④地域の活性化の可視化: 地域のイベントが活気を取り戻している様子を伝え、各種団体や部会の活動を継続的に発信することで、組織の透明性を高めることに貢献しています。

・改善すべき点

①担い手の発掘: 広報活動を通じて地区住民の周知啓発は進んでいるものの、現時点では**「新たな担い手」の発掘には十分に繋がっていない**という課題が挙げられている。活動への興味を、実際の運営参画へとどう結びつけるかが今後の課題。

・松浪地区では、市民集会、コミセンまつり、防災訓練、広報紙の発行など、地域の交流や安全につながる活動が幅広く行われていることが分かり、特に防災訓練は参加者も多く、地域で防災意識を高める活動は印象に残りました。

・地区での地域活動の資金に関してハブの機能を持っています。特に、協議会の財政として各単位自治会の会員一人当たりいくらかという形で収入があり、もっとも会費制的な性格の強い協議会といえるでしょう。これによって財政が安定すると思われる。

今後の運営や事業展開に関する助言について

今後の運営や事業展開にあたり、期待することや注意すべきことがあれば、ご記入ください。

・松浪、浜須賀地域はホワイトカラーのセカンドライフ男性シニアが多いイメージがある。潜在能力が高いシニアの活躍の場を考えて頂きたいと共に人材リストを整備して頂き市内で必要とされている人材の供給も考えて頂きたい

→いただいたご意見を地域に情報提供させていただきます。様々な経験や知識を持つ人材に地域活動に関わっていただくことは重要であることから、市としては、地域活動の意義の情報発信などを通して、活動への参加のきっかけづくりや、関係機関と連携した活動のマッチングなどに取り組んでまいります。

・アレセイア中高等学校の探究授業に地域探求学習が組み込まれている。学校の探究授業、ドルカス部の地域貢献交流の場の提供を考えて頂きたい。

→現在まつなみだよりの配布・回覧などの交流があります。そういったご相談がございましたら、検討が進められます。

・デジタルとアナログのさらなる融合: 引き続き広報紙を継続発行するとともに、ホームページの定期的・継続的な更新を通じて、より充実した情報発信体制を構築することを期待します。

- 地域活動への参加促進: 広報紙を通じて活動に興味を持つ人を増やし、最終的には事業や部会へ実際に参加する住民を増やしていくことで、地域活動の推進力となることが望めます。
- 今後も、防災、防犯、交通安全など、住民の暮らしに身近なテーマを大切にしながら、地域の声を活動につなげていくことが期待されます。広報紙やホームページを活用し、活動を知る人や参加する人が少しずつ広がるとよいと思います。

団体名

8 浜須賀地区まちのちから協議会

団体の運営、事業の実施状況について

団体の運営（構成団体・委員、会議等の実施回数、収支予算・決算 など）、事業を実施する中で良かった点や改善すべき点について、感じたことをご記入ください。

- 浜須賀会館で行われている特定事業 地域乳幼児サポート事業は直近では関心が高い活動であり、多くの参加者もあり是非継続して頂きたい。地域の交流の場として、他の団体との交流も検討願いたい
→ご意見を地域に情報提供いたします。
- 広報のまちのちからニュース（臨時号、第24号、第25号）が¥335,785は高すぎないか。又費用を掛けるのであれば事後報告内容では無く地域の情報提供の場になるような紙面も検討要。
→読みやすく伝わりやすい紙面構成や負担軽減の観点から、印刷・レイアウト・自治会ごとの部数仕分けも含まれた金額となります。協議会の説明や防災マップ掲載など、既に事業報告以外の情報発信にも取り組まれております。
引き続き、地域に有用な情報を掲載していただけるよう、地域に提案してまいります。
- 役員手当 100k¥の支出計上について規約では、「役員手当は別に定める」となっているが総会議事録等に記載はありますか。又他の協議会には役員手当の支出はありませんが行政の見解を知りたい。
→役員手当に関する規程を定められており、総会では予算で承認されています。行政としては、実費弁償相当の手当てにつきましても、会議や事業の準備等役員の負担増による担い手不足の現状等も鑑み、地区のルールに基づき適正なものにつきましても、問題なく支出いただけるものと認識しています。
- 認定基準確認書に基づく認定基準には適合していると所見します。

（地域幼児サポート事業）

• よかった点

- ①親同士の交流と安心感の提供: 初めての子育てを担う親が悩みや大変さを共有できる空間を提供できており、参加者からは「幸せな場面だった」「子育てが楽しいと思えた」といった高い評価を得ています。
- ②専門家との連携: 市との連携により、乳幼児健康相談を同会場で実施することで、身近な地域で保健師に相談しながらリラックスできる環境が整えられています。
- ③スタッフの主体性とやりがい: 育児経験のあるスタッフや民生委員、ボランティアが、保護者の応援にやりがいを感じながら主体的に運営に関わっています。

・改善すべき点

- ①参加者数の減少: 地区内の出生数減に伴い、参加者数が当初の見込みより少なくなっており、それに伴いサポーター活動費も減額となっています。
- ②担い手の発掘: 現在の活動を継続・継承していくための、新たな担い手の発掘と育成が大きな課題となっています。
- ③事業の継続と安定: 安定した事業運営に努めるとともに、次世代への運営の引き継ぎを見据えた担い手確保への注力が期待されます。

(広報紙「浜須賀まちのちから」発行事業)

・よかった点

- ①幅広い周知と関心の向上: 全戸配布により地区内の住民が手に取りやすい体制を築き、幅広い世代へ地域活動への関心を高めることに成功しています。
- ②質の高い紙面づくり: 広報編集会議を通じて、写真や地図、テーマ性のある記事(防災など)を工夫しており、住民から「内容が良い」との声が届いています。
- ③地域活動への入口: 「自治会に入ってよかった」と思えるような紙面づくりを心掛け、地道な情報発信が地域コミュニティの醸成に寄与しています。

・改善すべき点

- ①速報性の不足: 紙媒体ゆえの速報性の課題があり、ホームページによる補完を行っていますが、依然として課題として挙げられています。
- ②若年層の参加と担い手不足: 若い世代の参加や、広報活動を支える担い手の不足が継続的な課題となっています

・浜須賀地区では、防災、防犯、環境、広報、子育て支援など、地域の暮らしに近い活動が継続して行われていることが分かりました。特に「すこやか赤ちゃんサポート」は、子育て中の保護者が安心して集まれる場として、地域らしい温かい取組だと思えます。

今後の運営や事業展開に関する助言について

今後の運営や事業展開にあたり、期待することや注意すべきことがあれば、ご記入ください。

・地域幼児サポート事業について

事業の継続と安定: 安定した事業運営に努めるとともに、次世代への運営の引き継ぎを見据えた担い手確保への注力が期待されます

・広報紙「浜須賀まちのちから」発行事業について

- ①拠点紹介による交流促進: 次年度は地域活動の拠点である「浜須賀会館」の紹介を予定しており、さらなる住民間の交流促進が期待されます。
- ②継続的な魅力発信: 写真や文章を通じて各団体の活動の魅力を伝え続け、最終的に「担い手の発掘」につながる役割を担うことが期待されています

・今後も、防災訓練や子育て支援など、住民に身近な活動を続けながら、参加しやすい雰囲気づくりを進めていただければと思います。広報紙やホームページも活用し、活動を知る人や協力者が少しずつ増えていくことを期待します。

団体名

9 鶴嶺東地区まちぢから協議会

団体の運営、事業の実施状況について

団体の運営（構成団体・委員、会議等の実施回数、収支予算・決算 など）、事業を実施する中で良かった点や改善すべき点について、感じたことをご記入ください。

- 自治会の団体区分を見ると地域間の相違が大きいように思う。
→各自治会の世帯数に応じて選出されていることから、自治会毎に人数の相違が生じています。
- まちぢから協議会のエリアとして課題はないのか教えて欲しい。
→鶴嶺東地区は、13地区の内、人口・世帯数、学校数（小学校3校、中学校2校）が最も多く、面積も3番目に広い地域となっています。また、縦断する相模線の線路により物理的にエリアが分断される立地条件もあることから、関係団体間での連携のとりづらさや活動のしづらさという点で、他地区と比較し難易度が高い地域となっております。そのような地域特性でありながらも、関係団体間の調整により柔軟な対応が図られており、大きな課題は生じておりません。
- 認定基準確認書に基づく認定基準には適合していると所見する。
- よかった点
 - ①多様な主体との連携と意見反映: ごみ出しマナー啓発特集の作成にあたり、市役所環境事業センターとの連携に加え、地域住民（環境指導員など）から「廃食用油」や「乾電池」といった具体的な課題を聴取し、実情に即した情報発信ができた点は非常に効果的です。
 - ②利用者に配慮したユニバーサルデザイン: 安心電話帳において、高齢者でも分かりやすいよう写真やイラスト、絵文字を多用して視認性を高め、さらに水性・油性マジックで書き込みができる厚紙光沢紙を採用するなど、使いやすさを追求した工夫が高く評価します。
 - ③コミュニティの活性化: 啓発活動を通じて環境安全部会のメンバーの出席率が向上し、活発な意見交換が行われるなど、組織内のやりがいやコミュニティの醸成に繋がっています。
 - ④着実な普及活動: 両事業とも10,000部（世帯）を発行・配布し、広報紙「スクラム」やホームページ、回覧板を活用して地域へ広く浸透を図った点は適切でした。
- 改善すべき点
 - ①効果測定の難しさ: 啓発活動を継続しているものの、地域住民の意識が具体的にどの程度向上したかを正確に把握・測定することには困難さが残っています。
 - ②新たな担い手の確保: 事業の実施が、現時点では活動を支える新しい人材の発掘や参画には結びついていないことが課題として挙げられています。

③情報の活用促進: 安心電話帳は家庭内に設置されているものの、掲載されている地震・火災時の対応や避難場所といった重要な情報を、いざという時に有効活用してもらうための周知がまだ十分ではないのではないかと。

- 鶴嶺東地区では、防災、環境安全、地域福祉、広報など、地域の身近な課題に合わせた活動が行われていることが分かりました。特に「困ったときの安心電話帳」や、ごみ出しマナーの啓発は、住民の生活に直接役立つ取組だと思えます。
- 住宅の新規開発に際して、ごみ集積所の事前調整を協議会環境部会がされているのは大変重要な活動だと思えます。現在は人口減少社会で、新規開発といった現象にあまり目が向きませんが、地域での生活には重要なことですね。

今後の運営や事業展開に関する助言について

今後の運営や事業展開にあたり、期待することや注意すべきことがあれば、ご記入ください。

- 茅ヶ崎市内の工業団地がある場所であり、企業と協力した防災訓練、防災活動を展開して頂きたい。
- 継続的な情報発信と意識の定着: ごみ出しマナーについては、令和8年度以降も同様の形で継続的な情報発信が計画されており、関係組織との連携を維持することで、住民の環境美化意識がさらに定着することが期待されます。
- 参画しやすい環境づくり: 担い手発掘のため、会議の土日開催を増やすなどの工夫を継続し、多世代や新たな住民が地域活動に加わることを期待します。
- 定期的なアナウンスによる情報の風化防止: 安心電話帳の内容を日常的に意識してもらえよう、広報紙等を通じて定期的に活用方法をアナウンスし、有事の際の適切な行動に繋げる取り組みの強化が望まれます。
- 既存事業の充実: 令和8年度計画にある「子どもを見守る活動」の継続や防災訓練の実施、ホームページの適宜更新などを通じて、地域の安全・安心がより強固になることを期待します。
- 今後も、ごみ出し、防災、通学路の安全など、住民が日々感じている課題を丁寧に拾い上げていくことが期待されます。広報紙やホームページも活用しながら、地域の人に分かりやすく伝えていけるとよいと思えます。

団 体 名

10 松林地区まちぢから協議会

団体の運営、事業の実施状況について

団体の運営（構成団体・委員、会議等の実施回数、収支予算・決算 など）、事業を実施する中で良かった点や改善すべき点について、感じたことをご記入ください。

- 一般事業/防災訓練事業/特定事業（ふくろう塾、かんがる、広報）の事業別収支決算のみの提出となっているが協議会全体の収支決算報告を作成しての補足資料とすべきと考える。→フォーマット統一を望む
→資料については、各地区が自主的に作成したもので、主に、総会資料、特定事業の事業実施報告書、その他資料（チラシ、成果物等）で構成されています。収支決算書・予算書については、昨年度の審議会においても、同様のご意見をいただいたことから、フォーマットの統一化を検討しましたが、各地区が作成しているという特性を踏まえ、各地区の自主性を尊重する形としております。審議のしやすさ、事務局の負担軽減の両面から引き続き検討してまいります。
- 特定事業はテーマを持った事業活動となっており松林の特徴に思う。子育て世代の居場所づくり、学習支援は直近の市民活動団体が積極的に活動しているテーマでも有り、市民団体との交流はありませんか。
→松林地区内でこども食堂や居場所づくりの事業を実施する別の団体との交流を模索しているところですが、実現には至っていません。
昨年度は、かんがるのぼっけを見学しに来た方が、松林地区内で新たに居場所づくりの事業をスタートさせるといった展開も見られたことから、後段の「今後の運営や事業展開に関する助言について」でいただいた委員からの助言も踏まえ、今後さらに充実した活動内容となるよう、様々な団体との交流について地域に促してまいります。
- 新規建設のコミセン運営準備室会議を9回の開催は評価する。コミセンの活用方法について同様の施設を持っている鶴嶺西コミセン、松浪コミセン、高砂コミセンとの意見交換を是非して欲しい。新しくできるコミセンであり、施設のハード/ソフトの運営でチャレンジした企画を検討して欲しい。
→今後開館に向けて、他施設への視察やヒアリングを行いながら、魅力的な内容となるよう様々な事業を企画していく予定となっています。
- 認定基準確認書に基づく認定基準には適合していると所見します。
- よかった点（成果・強み）
①「第3の居場所」としての定着と成長
ふくろう塾：家庭や学校でもない居場所として、中学生の自己肯定感を高める場となりました。学習支援では生徒が「わかった！」と歓声をあげる成功体験も見られました。また、高校生になったOBが参加し、後輩に高校生活の楽しさを話すといった世代間交流も生まれている。

かんがるーのぽっけ：未就学児と保護者の交流の場として定着し、家では野菜を食べない子がみんなと一緒に食べられるようになるなど、育児の悩みを共有し合える貴重な場となっています。

- ②外部資源の有効活用とコスト削減：食材価格高騰に対し、支援者の畑やフードバンクからの食材調達、ふるさと納税（お米）の活用により材料費の抑制に努めました。
- ③情報発信のデジタル化進展：LINE や Instagram の活用により、イベントの周知や急な変更連絡がスムーズになり、参加しやすさが向上しました。
- ④地域コミュニティの醸成：広報活動を通じて、これまでの自治会単位を超えた地域コミュニティへの参加が見られるようになりました。

・改善すべき点

- ①活動体制の固定化と担い手不足：広報活動において、HP 更新や広報紙制作の作業負担が一部の部会員に偏っており、新たな担い手の発掘が難しい状況にある（今期の増員は1名）。
- ②スタッフ不足による事業の中止・縮小：昼間に動けるスタッフが不足しており、予定していた野外活動やピザ釜イベントが実施できませんでした。
- ③集客・参加の波：年度末に開催した小学生対象の体験会に参加者がいないなど、特定のターゲットへの周知や時期の設定に課題が残りました。

・松林地区では、防災、子ども、福祉、広報、環境など、幅広い分野で活動が行われていることが分かりました。特に「ふくろう塾」や「かんがるーのぽっけ」は、子どもや子育て世代の居場所づくりとして、地域に根ざした大切な取組だと思えます。

・福祉部会のサロンや子ども部会のフクロウ塾、かんがるーのぽっけは、いずれも素晴らしい事業です

今後の運営や事業展開に関する助言について

今後の運営や事業展開にあたり、期待することや注意すべきことがあれば、ご記入ください。

・鶴嶺西コミセン、松浪コミセン、高砂コミセンを積極的に分析し運営の新規性を出生てもらいたい。

EX.

地区ボラ/地域包括/プラザ 等集合している

利用者が入りやすい工夫（明るさ、少し中が見える）

スポーツエリア（小規模体育館）…仲間・家族・友人等の利用促進

→松林コミセンにおいては、計画の初期段階から地域住民の声を多く取り入れ、建物の設計に反映しています。多様なグループによるフレキシブルな利用を叶えられる機能や設備、誰もが気軽に立ち寄れる開放的なデザインは、松林コミセンならではの特徴となっています。他施設の活動も参考にしながら、松林地区のコミュニティ・福祉の拠点として、多くの地域住民に愛着を持っていただける施設を目指してまいります。

- 新拠点「松林コミュニティセンター」の開館
令和8年10月にオープン予定のコミセンを拠点とし、運営組織との密な連携による、よりきめ細やかな情報発信や活動展開が期待されます。
- 活動の拡充と多様化
夏休みだけでなく秋冬休みにも「ふくろう食堂」を開催する計画や、ヨガ・音楽イベントとのコラボ企画、空き家を活用したさらなる居場所作りが検討されている。
- 学校との連携強化
中学校との連携をさらに深め、居場所を必要としている生徒がより参加しやすくなるような体制づくりが期待されます。
- 「知りたいこと」に応える広報
住民が興味を持つ内容を積極的に取り上げ、地域への愛着や帰属意識を高める広報事業への発展を期待します。
- 今後も、子どもや子育て世代を支える活動を大切にしながら、防災や福祉などの取組も無理なく続けていくことが期待されます。新しいコミュニティセンターの活用も含め、地域の人が参加しやすい形で活動が広がるとよいと思います。
- 松林コミュニティセンターができ、協議会がその指定管理者になるのは、大変楽しみです。コミュニティセンターを事務局のように機能させるといいと思います。

団体名

11 南湖地区まちぢから協議会

団体の運営、事業の実施状況について

団体の運営（構成団体・委員、会議等の実施回数、収支予算・決算 など）、事業を実施する中で良かった点や改善すべき点について、感じたことをご記入ください。

- まちぢから協議会を発足したメリットや方向性が感じられない。現状の活動では、従来の自治会組織で十分なように思う。
→南湖地区ではまちぢから協議会の会議や主催イベントをとおり、自治会を含む子ども会や体育振興会等の地域団体が情報共有を行っています。互いの活動を理解し協力しながら活動をするとともに、担い手不足等の共通課題についても協議する場として、まちぢから協議会は有効な役割を果たしています。
- 認定基準確認書に基づく認定基準には適合していると所見する。
- よかった点
 - ①安全管理と熱中症対策： 猛暑の中での開催となりましたが、ウォータージャグを設置するなどの工夫により、体調不良者や混乱を出すことなく安全に運営されました。
 - ②多世代交流の実現： 約 1,000 人の地域住民が参加し、校庭に盆踊りの大きな輪ができるなど、老若男女が交流する場となった。特に、西浜中学校の家庭科部による浴衣制作や手芸品販売、学生による太鼓演奏などは、若い世代の活躍として地域から高く評価されています。
 - ③広報活動の成果： 協議会の PR を兼ねて作成した 700 本のオリジナル団扇が好評を博し、活動の周知と新たな担い手の発掘に向けた効果的なアプローチとなりました。
 - ④伝統文化の継承： 「南湖麦打唄」を演目に盛り込むことで、地域の伝統文化を継承する機会が提供された。
 - ⑤コスト削減の工夫： チラシを自前で作成・印刷することで、当初 30,000 円と見込んでいた印刷代を削減することに成功しています。
- 改善すべき点
 - ①運営体制の維持： 会場設営スタッフの高齢化や運営予算の縮小により、事業の継続が困難な状況に直面しています。
 - ②予算管理： 電飾装置の配線工事における人件費上昇により、当初の予算計画を超過した費用が発生し、協議会からの負担金で補填する形となりました。
 - ③伝統文化継承の危機： 継承者の高齢化に伴い、伝統文化を伝える機会そのものが年々減少しているという根本的な課題があります。

- 南湖地区では、納涼盆踊り、防犯講話、防災訓練、広報紙の発行など、地域の交流や安全につながる活動が行われていることが分かりました。特に納涼盆踊りは、多世代が参加できる地域行事として、南湖地区らしい大切な取組だと思えます。
- ずっと納涼盆踊りを特定事業として実施されていて、その狙いの一つとして、地域活動の担い手の発掘を挙げられています。今回は、子ども会の保護者が協力したことや、小中学生が出店で協力したことなどが記載されていました。

今後の運営や事業展開に関する助言について

今後の運営や事業展開にあたり、期待することや注意すべきことがあれば、ご記入ください。

- 新たな担い手の確保： 団扇の配布や学生の参画を通じて得られた接点を活かし、高齢化による人手不足を解消するための具体的な「新たな担い手」の育成と定着が期待されます。
- 継続的な多世代交流： 今回見られたような、中学生や子ども会の保護者との協力関係をさらに深め、地域コミュニティの醸成を継続していくことが望まれます。
- 反省会の活用： 実施後に行われた反省会や意見交換会での声を次年度の計画に反映させ、課題である予算面や設営体制の改善につなげていくことが期待されます。
- 今後も、地域のつながりを大切にしながら、防災や防犯など身近な課題にも取り組んでいくことが期待されます。盆踊りのような行事は、運営する方々の負担にも気を配りながら、無理なく続けられる形で発展していくとよいと思います。

各地区まちぢから協議会

認定基準への適合状況及び活動状況に対する意見

その他の意見

・まちぢから協議会委員について

2016年発足当時から構成員が変化していない。

地縁団体の代表記載が主体で、公募による者、本会が推薦する者との記載はあるが、自治会/PTA等の地縁団体が主体とならざるを得ない規程では変化の激しい時代に対応すべく多様な主体の人材をコーディネートする組織運営は難しいのではないのでしょうか。各地域の特色を捉えた人材データバンク、多様な主体との連携ができる人材をコーディネートできる組織又は人材の育成が必要だと考えます。今後の取組みを教えてください。

→まちぢから協議会が発足して10年が経過する中、今後、まちぢから協議会が発展的に活動を継続していくためには、これまで中心的な役割を担ってきた自治会等の地縁団体に加え、新たに多様な主体の参画による、活動の展開や担い手の確保が必要であると認識しているところです。

市や市民活動サポートセンターが有する団体・人材等の情報も活用しながら、各地区まちぢから協議会と多様な主体との連携体制の構築に努めてまいります。

・予算資料の簡易化とフォーマット化による共通化

時間を掛けてボリュームのある資料を作成して頂いているが審議する側にとって非常にボリュームで理解に時間を要し過ぎる。

〈予算資料案〉

①主要事業の実績表及び活動予定表…A4×2枚

②収支予実算表 …A4×1枚

前年度（予算/決算）当年度（予算）、備考・内訳

③当年度活動予定報告書 …A4×1枚

・会議内容/部会活動/特定事業

・前年度の反省事項/当年度の活動課題

何をやったかの報告ではなく、計画に対して実績がどうだったのかを把握して課題や検討事項に対して一緒に協議する事が大切だと思います。上記4枚/協議会をに限定し、必要に応じ補足資料が良いのではないのでしょうか。資料作成に時間と労力及び審議理解に時間を要し過ぎ、肝心の課題や懸案事項の協議が不十分のように思います。長年の慣習で変更を求めにくい環境にあるように感じるが、行政主導で是非簡易化とフォーマット化を進めて頂きたい。

→資料については、各地区が自主的に作成したもので、主に、総会資料、特定事業の事業実施報告書、その他資料（チラシ、成果物等）で構成されています。

各地区の年間の活動が網羅的に記載されていることから資料の分量が多くなっておりませんが、審議いただきたい要点（課題や懸案事項）が明確となるよう、次年度に向けて、資料の簡易化について検討をしております。

なお、収支決算書・予算書については、昨年度の審議会においても、同様のご意見をいただいたことから、フォーマットの統一化を検討しましたが、各地区が作成

しているという特性を踏まえ、各地区の自主性を尊重する形としております。審議のしやすさ、事務局の負担軽減の両面から引き続き検討してまいります。

- 助成金について

各協議会での取り組みに温度差があるように思います。助成金の申請等の勉強会を検討できないでしょうか。

→各地区に対しては、担当者より助成金の申請等に関する助言や情報提供等の支援を行っております。今後も必要に応じて、各地区の活動に有益な支援を行ってまいります。

- 広報について

事業の事後報告が主体となっていて、地域で活用できる情報が少ない。SNSの活用を含め、広報紙の費用及び内容の検討要広報についてはすべての協議会に部会が存在している行政主体で手段、掲示内容等の検討会を実施してはどうでしょうか。

→広報紙とは別に、部会毎にSNSを活用したタイムリーな情報発信（事業の開催案内等）を行っている事例もございます。各地区の事例等については、まちぢから協議会連絡会の定例会を通じて、有効な情報について横展開を図ってまいります。

- 小中学校の学区が一致していないとの意見について

特に合わせなくても良いと考える。

→地区によっては、まちぢから協議会の活動区域と学区が異なることにより、活動のしづらさが生じています。各地区の判断のもと、学区に合わせる形で、活動区域の見直しを行う場合は、必要に応じて、市もサポートを行ってまいります。